

V. 研究所図書館

1. 資料収集

2023 年度末の蔵書数は約 78.5 万点、各種資料の蔵書数及び受入数は表 V-1、表 V-2 のとおりである。

研究所図書館は、研究所創立以来、開発途上国の統計資料・政府刊行物、雑誌・新聞、海外の大学・研究機関の調査報告書など、現地の一次資料に留意して収集を行ってきた。

開発途上国の刊行資料については、各国の書店や政府機関から直接購入するとともに、海外の主要な研究機関、政府機関等と研究所図書館との間で締結している出版物等の資料交換制度を活用した収集に加えて、海外研究員や海外出張者の協力により現地での直接収集も行ってきた。現地での直接収集は、2023 年度はタイ、インドネシア、コロンビアの 3 カ国で行った。特にタイでは、タイ国家統計局 (NSO) の移転に伴い資料の散逸が懸念されたことから、職員が現地出張で資料を選定し約 1,000 冊の統計資料を受贈した。研究所図書館が不断に培ってきたネットワークと収集ノウハウを活かしたコレクションの拡充は、研究者からも高い評価を受けた。

表 V-1 資料種別別蔵書数 (概数)

(1)図 書・年刊 (冊)	533,800
(内訳)	
洋書	259,600
和書	84,000
アジア・アフリカ諸語 (中国語・韓国語を含む)	118,700
別置資料	71,500
(2)統計資料 (冊)	119,000
(3)雑誌 (タイトル数)	3,700
(4)新聞 (タイトル数)	530
(5)マイクロフィルム (リール)	56,900
(6)マイクロフィッシュ (点)	2,800
(7)CD-ROM, DVD, ビデオ等 (点)	7,400
(8)地図 (枚)	54,100

[注]電子ジャーナル、データベース、電子書籍、非公開資料を除く

表 V-2 資料種別別受入数

	購入	寄贈交換等	計
(1)図書・年刊（冊子体）	1,360	1,536	2,896
（内訳）			
洋書	622	708	1,330
和書	211	275	486
アジア・アフリカ諸語 （中国語・韓国語を含む）	527	553	1,080
(2)統計資料（冊子体）	435	343	778
(3)製本雑誌	349		349
(4)マイクロフィルム（リール）	0	1	1
(5)マイクロフィッシュ（点）	0	38	38
(6)CD-ROM, DVD, ビデオ等（点）	108	87	195
(7)地図（枚）	0	0	0

[注]非公開資料を含む。

2. 資料整理・保存

(1) 目録

2023年度は、27言語にわたって、合計4,332冊（点）の図書の整理を実施した。その内訳は、和洋資料2,622冊、アジア諸言語資料1,710冊（コリア語590冊、中国語376冊、タイ語328冊、ラオ語101冊、アラビア語92冊、クメール語73冊、ビルマ語70冊など）である。また、逐次刊行物（雑誌・新聞）の整理については、和洋資料178誌、アジア諸言語資料70誌の新規書誌作成および書誌修正を実施した。

作成した目録データは、研究所の蔵書目録データベースへ登録すると同時に、国立情報学研究所（NII）のオンライン総合目録データベース（NACSIS-CAT）へも登録した。NACSIS-CATへの図書書誌の新規作成件数は2,761件で、参加1,348館中第14位であった。また、逐次刊行物書誌の新規作成件数は432件で、参加館中第1位であった。これは、研究所図書館の迅速な整理と、他機関にはない貴重な資料を多数所蔵していることを示すものである。2022年度に続いて2023年度も、NACSIS-CATの逐次刊行物の書誌作成に大きく貢献し、研究所図書館の資料情報の発信を強化した。

(2) 雑誌記事索引

2023年度の雑誌記事索引採録件数は、1,665件（2022年度：1,941件）であった。

表V-3 2023年度雑誌記事索引採録数

言語	英語	フランス語	日本語	ポルトガル語	中国語	インドネシア語	タイ語	スペイン語	コリア語	アラビア語	合計
採録数	1,059	169	164	84	82	38	23	16	15	15	1,665

(3) 資料の保存

館内の資料保存環境調査として、定期的なデータロガーによる温湿度測定（18 か所）、マイクロ庫の酢酸濃度測定を行っている。研究所全体の空調のキャパシティの問題により、7 月半ばから図書館の 3 階以上の空調停止、および空調稼働時間の短縮化等の措置がとられた結果、外気温の上昇の影響も重なり、上層階は 30℃以上となった。温湿度ログをモニターした結果、高温状態の 4 階に配架していた貴重書・劣化資料約 5800 冊については、保存環境改善が必要と考え、1 階の除湿機と個別空調がある旧書店スペースを貴重書・劣化資料専用書庫として活用することとした。資料の移動は 8 月に実施し、以後、貴重書・劣化資料専用書庫の空調・除湿機は 24 時間稼働している。

その後、10 月に 1 階参考図書コーナーにカビを発見し、それ以降、特に年末から図書館の全階およびマイクロ庫で多数のカビ被害が発見された。館内での広範囲にわたる同時多発的カビの発生、およびマイクロ庫でのカビの発生はこれまでになかった事態である。これは夏からの 3 階以上の空調停止等の結果、温度差による結露が生じ、カビの生育に適した温湿度環境となったため、次々に発芽したものと考えられる。こうした事態を受け、7 月半ばより停止されていた空調は、3 月半ばに再稼働された。

カビ被害資料への対策として、12 月末には 1 階参考図書コーナーへの立ち入りを制限し、2 月から 3 月にかけて業務委託によるカビ処理を実施した。その後各階で発見された被害資料は逐次隔離措置、アルコール除菌等の対策を行った。

マイクロ資料の保存対策として、酸加水分解により劣化するトリアセートセルロース（TAC）ベースのフィルムのうち、通常の複写機による複製ができないほど劣化が進んだフィルムで国内他館に所蔵がない貴重な 13 点を選定し、特許技術を用いた複製を実施した。また、劣化したフィルムから放出される酢酸は他のフィルムの劣化も促進するため、酢酸吸着剤等による対策に加え、マイクロ資料の劣化状況や他館での所蔵状況調査をすすめ、フィルムの素材別に除籍と修復対策の方針を定めた。

3. 利用者サービス

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが 5 類に移行したことにもない、

感染対策としての検温を廃止、マスクは個人の判断により着用、手指消毒は必要に応じて行うことと変更した。

(1) 閲覧

2023 年度の研究所図書館の閲覧利用状況は表 V-4 に示すとおりである。外部閲覧者数については、3,322 人（2022 年度：2,463 人）と昨年度と比べて増加した。2022 年 11 月からの予約制廃止や、新型コロナウイルスが 5 類に移行し感染対策が緩やかになった影響とみられる。

研究所図書館見学は 2022 年 11 月から再開し、54 件、498 名の見学者を受け入れた。

表 V-4 2023 年度閲覧利用状況

区 分	2022 年度	2023 年度
① 外部閲覧者数 (うち土曜日)	2,463 人 294 人	3,322 人 373 人
② 蔵書貸出冊数	5,520 冊	5,212 冊
(うち内部)	3,958 冊	3,651 冊
(うち外部)	1,562 冊	1,561 冊
③ 資料利用冊数	34,083 冊	33,789 冊
④ 資料複写枚数	37,978 枚	28,638 枚
(うち郵送依頼分)	5,152 枚	2,549 枚
⑤ 研究所図書館見学	23 件	54 件

(2) 利用者アンケートの実施

研究所図書館では毎年、外部利用者及び職員の満足度を調査し、利用者サービスの向上に役立てている。

表 V-5 2023 年度利用者アンケート結果

	配布総数	回収数	回収率	総合役立ち度 (上位 2 位の割合)
外部利用者	134 通	126 通	94.0%	99.2%
職員	256 通	61 通	23.8%	100%

(3) 研究支援

職員からの依頼により、図書館間相互貸出サービスを利用して、外部図書館から 352 冊の資料を借り受け、194 件の論文等の複写取り寄せを行った。

また、所内向けの情報リテラシー研修について、過去の研修動画の公開に加え、新規で 4 コマ開催し、研究所図書館の各種サービスおよび電子資料等の利用方法に関する研修を実

施した。

4. 資料情報相談

(1) 照会・相談件数

開発途上国の経済、政治、社会などに関する具体的な事情または資料について各方面から寄せられる照会に対しては、所内の研究者の協力を得ながら主に情報サービス班が回答を行っている。また、主に図書館で対応した資料に関する問い合わせ（レファレンス）について、国立国会図書館のレファレンス協同データベースに登録しており、2023年度の年間データ登録ポイント225ポイントを達成し、御礼状を受け取った。

2023年度の研究所全体の主な照会・相談件数は次のとおりである。

表V-6 2023年度主要照会・相談件数

	発展途上国全般	アジア全般	中国・台湾	韓国・北朝鮮	東南アジア	南アジア	中東	中南米	アフリカ	中央アジア	東欧 CIS	総計
政治		2	18	5	68	5	3	11	26			138
社会				1	7	1	1	5	2			17
経済	2	1	17	3	16	6	1	1	5			52
財政			1									1
法律	1	2		1	1		1	1				7
労働					4			1				5
人口			1		2	1						4
金融・投資					1							1
援助			1		3	1		2				7
貿易・通信・運輸	2	1	1	2	4	2				1	1	14
商業・流通・サービス		1	1		4	1			1			8
環境		2	1		4							7
資源・エネルギー	1		1		3							5

農林・漁業			1		5	1		1	4			12
工業・技術			3		3			1				7
企業	1	1	2		3							7
教育					1			1				2
一般・その他	1				6	4		2	7			20
総計	8	10	48	12	135	22	6	26	45	1	1	314

[注]所蔵確認などの簡易な照会（118件）は含まない。

5. イベント開催

研究所図書館の利用拡大と認知度向上などを目的として、資料展と研修を実施した。コロナ禍では感染症対策のため来館を促すイベントは開催を見合わせていたが、新型コロナウイルスの5類移行を受け、2023年8月1日～9月28日にかけて資料展「沈黙の時代——トンチャイ・ウィニッチャクン著作とタイ現代史」を図書館1階で開催し、好評を得た。また、国立国会図書館関西館と共催のアジア情報研修は2023年度はアジア経済研究所を会場として実施した。

表V-7 2023年度 イベント開催一覧

開催日	イベント名・内容	開催場所
2023年8月1日 ～9月28日	資料展「沈黙の時代——トンチャイ・ウィニッチャクン著作とタイ現代史」 展示物：トンチャイ・ウィニッチャクン著作約70点、解説パネル 配布物：展示資料目録	アジア経済 研究所図書 館
2022年12月7日 ～8日	国立国会図書館・アジア経済研究所共催令和5年度 アジア情報研修「変化する中国を調べる～ビジネス 情報と人口統計～」 ・科目1「ビジネス情報を調べる」 講師：木下雅弘、濱川今日子（国立国会図書館関西館 アジア情報課） ・講演「ビジネスとテクノロジーを調べる：中国企 業・産業研究のケース」 講師：木村公一朗（開発研究センター） ・科目2「人口統計から調べる」 講師：村田遼平（学術情報センター）	ア ジ ア 経 済 研 究 所 C21 会議室

6. アジア経済研究所学術研究リポジトリ (ARRIDE) とデジタルアーカイブス

ARRIDE は、研究所の開発途上国・地域に関する研究成果を保存し、世界に発信するシステムとして 2006 年 8 月に公開された。2017 年には、国立情報学研究所が提供する JAIRO Cloud を利用したクラウド型機関リポジトリに移行し、「アジア経済研究所オープンアクセスに関する規程 (2017 年 3 月施行)」「アジア経済研究所学術研究リポジトリ運用に関する内規 (2017 年 3 月施行、2019 年 4 月改正)」に基づき、一元的に研究成果を収集、保存、公開してきた。2023 年度は、研究成果の可視性向上のため、国立情報学研究所が JAIRO Cloud の大型システムアップデートを実施し、論文だけでなく研究データを登録、公開するために必要な機能を有する新基盤へと移行した。

研究所図書館のデジタルアーカイブス (「アジア動向年報重要日誌検索システム」、「近現代アジアの中の日本」、「『日本の経験』を伝える」、「開発途上国のフォトアーカイブス」、「アジア経済研究所所蔵地図目録」) は 2006 年以降、順次構築、公開されてきた。データベース公開後相当期間経っていることや長期的な事務・管理コスト等を鑑み、2022 年度に機構の基盤サービス Amazon S3 (Simple Storage Service) バケット上にて再構築を行うことを決定し、2023 年 4 月、シンプルで見やすいデザインに変更してリニューアル公開し、Google カスタム検索などを導入して貴重資料の利活用を促進した。

7. 図書館間協力・交流

(1) 図書館間相互貸借・複写

NII の NACSIS-ILL システムおよび専門図書館協議会参加館間等の貸借を合わせた 貸出受付点数は 767 冊、複写受付件数は 370 件であった。NII の統計情報によると、NACSIS-ILL による研究所図書館の図書の貸出依頼実績は 704 冊、加盟している 1,641 館中第 10 位と、高いランキングを維持した (2022 年度：1,635 館中第 12 位)。

(2) 図書館共同利用制度

図書資料の利用促進を目的とした「図書館共同利用制度」は、協定締結機関が相互の構成員への個人貸出及び図書館間の相互貸借のサービス提供を行うものである。同制度を利用した 2023 年度の個人貸出冊数は 431 冊であった。

表 V-8 「図書館共同利用制度」締結機関

No.	機関名	締結日
1	神田外語大学附属図書館	2012 年 12 月 20 日
2	一橋大学附属図書館	2014 年 1 月 15 日
3	東京外国語大学附属図書館	2014 年 1 月 31 日

V. 研究所図書館

4	お茶の水女子大学附属図書館	2014 年 2 月 28 日
5	神戸大学附属図書館	2014 年 5 月 12 日
6	一橋大学経済研究所図書館	2014 年 5 月 23 日
7	東京大学経済学図書館	2014 年 6 月 25 日
8	京都大学東南アジア地域研究研究所図書室	2014 年 9 月 1 日
9	千葉大学附属図書館	2014 年 10 月 10 日
10	上智大学中央図書館	2014 年 11 月 1 日
11	東京大学駒場図書館	2015 年 2 月 20 日
12	放送大学附属図書館	2015 年 2 月 24 日
13	名古屋大学附属図書館	2016 年 4 月 1 日
14	関西学院大学図書館	2016 年 4 月 1 日
15	早稲田大学図書館	2018 年 5 月 31 日
16	東京農業大学図書館	2019 年 10 月 1 日
17	大阪大学附属図書館	2020 年 4 月 1 日
18	共立女子大学・共立女子短期大学図書館	2020 年 11 月 1 日

(3) 各種協力・交流事業

2023 年度は、昨年度に続き国立国会図書館と共催でアジア情報研修を実施（2023 年 12 月 7～8 日）し、アジア情報関係機関懇談会（2024 年 2 月 9 日 国立国会図書館主催。テーマ：「アジア資料の蔵書構築の現状と課題」）では、「アジア経済研究所図書館の海外資料購入」を報告し、図書館関係機関との情報共有と交流を深めた。

表 V-9 図書館間協力・交流事業一覧

開催月	内容	主催
2023 年 12 月 7-8 日	令和 5 年度アジア情報研修「変化する中国を調べる～ビジネス情報と人口統計～」	国立国会図書館との共催
2024 年 2 月 9 日	令和 5 年度アジア情報関係機関懇談会「アジア資料の蔵書構築の現状と課題」 ・報告「アジア経済研究所図書館の海外資料購入」狩野修二（学術情報センター）	国立国会図書館

[注]12 月 7-8 日の詳細は、表 V-7 を参照。

8. 資料・情報委員会

資料・情報委員会は、以下の分科会を設置して活動した。

(1) アジ研書籍復刻プロジェクト分科会分科会

まずは外部学術出版社が進めている復刻企画のリサーチをおこなった。各社がどのような方針のもとで復刻企画を進めているのかを取りまとめた資料を作成し、研究所の復刻企画のあり方について議論を重ねた。また、復刻本ウェブサイトのサンプルページも作成し、効果的な見せ方について話し合った。

復刻本の選定方法・広報活動・紹介文執筆等については、分科会外の研究者も招き意見交換会を開催した。いくつか具体的な復刻候補本もあがったのでそれらをリスト化し、次年度の活動のベースにすることとした。

(2) 非刊行物整理・保存・公開推進分科会

2023年4月にリニューアル公開したデジタルアーカイブスの改修を行った。リニューアル公開直後のデジタルアーカイブスでは、メタデータと画像がずれている、ページ順が正しくない等、多くの問題が発生していた。そこで、電子化した画像が保存されているDVDから画像を再作成し、メタデータと画像のずれやページ順の修正、メタデータの修正、ビューアでは画像が見にくく実質的には資料が読めない点の改善、不備不具合報告フォームの設定などを行った。

また、図書館が保有する非刊行物資料について、整理・保存の対象とする基準を策定し、受入あるいは廃棄の処理を行った。